



明けましておめでとうございます

今年も、ご家族揃って、希望の年をお迎えのこととお慶び申し上げます。それぞれのご家庭では、新しい年を迎え、新しい目標や計画を立てられたことでしょう。

幼稚園も新学期を迎え、久しぶりに子どもたちの元気な声が園庭に響いています。始園式日から吹雪交じりの寒い日で、気分が萎えそうでしたが、子どもたちの元気な挨拶に元気づけられ、気持ちに奮い立ちました。始園式の日から、寒波が襲来し、玄関前に立っているのが辛くなりますが、子どもたちの笑顔や元気な声に、心は温かくなります。やはり幼稚園は子どもが一番です。



3学期はまとめの時期であり、年長さんにとっては、小学校への入学準備の期間でもあります。年度初めに立てていた各学年の目標に向かって、全ての子どもが目標達成できるように、これまでの保育指導を振り返り、課題となっていたところを修正していきたいと考えています。

年少さんにとっての今学期は、初めての劇遊びを迎えます。これから、年中・年長の劇の発表会へと発展していく大事な遊びとなるだけに、担任は、子どもの想いを尊重したスタートに、神経を研ぎ澄ましています。

年中さんは、年長さんの後を受けて来年度は、幼稚園での最高学年となるために、その自覚を促す意味で、2月に、2歳児のたんぼぼ学級との交流を計画しています。毎年のことですが、年中さんは、幼い弟や妹に当たる乳幼児のお世話がよくできていました。今年も、きっと、楽しくお世話し、遊ぶことができることと思います。楽しみです。

年長さんにとっては、幼稚園で過ごす最後の学期となります。今週末の竹馬披露会、2月末のミニ・コンサート、3月のお別れパーティーなど残る大事な行事を済ませ、最大のイベントである卒園式を迎えます。卒園式では、本園で学んで身に付けた入退場での歩き方、メッセージの発表や歌などの表現の仕方など最高の姿を、保護者の皆様にご覧いただきたいと思っています。

韓国からアニョハセヨ

去る10日～12日までの3日間、韓国の大同大学の先生2名と学生12名が、本園で学びたいという目的で来園し、子どもたちと交流を深めることができました。

きっかけは、昨年4月に同校から30数名来園された学生や先生方が、子どもの活気ある姿や緑に恵まれた自然環境に驚かれ、本園を大いに気に入っていただいたことです。そして、「もし、自分に子どもがいたら、絶対にこの幼稚園に入れたい」とまで話された先生が、今回も来園されました。

歴史を感じさせる現園舎を気に入っていただき、趣があることを絶賛されました。何と言っても1階建てであるということ、保育室の広さが40数年前の基準で広いということが理由のようでした。

響流の森についても、都会の真ん中であって、子どもたちが、お父さん方手作りの遊具で、自由に遊べることを羨ましく思っておられました。今回も、是非、学生に案内してほしいと要望されましたが、生憎の雪や雨のために案内できず残念でした。

12名の学生は、各クラスで、子どもたちと触れ合い、鬼ごっこをしたり、折り紙を折ったりして、楽しく過ごしていました。全ての学生が、本園を気に入り、中には、4月に来園した学生もいました。また、独学で日本語を学び、何不自由なく話すことができる学生は、本園に就職したいという希望を持ち、受験の仕方を尋ねるほどでした。

最終日に、日本語で苦勞して書いたと思われるお礼状を学生から手渡され、職員一同、その熱意に感動しました。

大同大学は、本園や学園と提携を結び、定期的に交流をしたいという希望を持ち、4月に再訪問を予定しているようです。新幼稚園教育要領実施及び新園舎の関係で、国際理解教育を視野に入れ、提携について検討していきたいと思っています。

